

きく（神馬）栽培暦

作型（無摘心栽培）

	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	備考
11月・3月 半電2度切り 出荷			10			14 21				10 17			<input type="checkbox"/> 定植 <input type="checkbox"/> 出荷 電照 消灯
		10		22 2 6		19		102226					
12月・4月 年末2度切り 出荷			5				20 27				5 12		
			5		23 4 8		25		10				

栽培管理

土壌消毒

バスアミド、D-D、クロルピクリン等で土壌消毒する。
線虫の被害がある場合、ネマトリンをガス抜き後、あわせて施用する。

肥培管理

土づくりのため土壌消毒前に堆肥3t / 10aを投入。また必要に応じて土壌改良材を施用する。

施肥

肥料名	施肥量	N	P	K	施肥時期
BB園芸2号(元肥)	200	24.0	24.0	24.0	定植前

BB園芸2号(12-12-12)、必要に応じて液肥を施用。

定植

定植が高温期の場合、寒紗(70%前後)を張っておく。また定植前には十分に灌水しておく。

灌水チューブ										
<table border="1"> <tr><td>::</td><td></td><td>::</td></tr> <tr><td>::</td><td></td><td>::</td></tr> <tr><td>::</td><td></td><td>::</td></tr> </table>	::		::	::		::	::		::	15cm×15cm・4目のネット 1マス4本植え(中2条抜き)
::		::								
::		::								
::		::								

電照

8月以降は深夜4~5時間の電照を行う。

灌水

定植直後は十分灌水し、活着をそろえる。
活着後は1~2回程度、根の伸張促進のために軽く水切りを行う。
その後は気候条件・生育ステージにあわせた管理を行う。

ビニール被覆

10月10日前後を目安にする。(最低気温が15℃を下回る前に行う)

消灯

定植から消灯までの期間は50日程度(年内)、消灯から開花までを55日程度(年内)を目安とする。
消灯時の草丈を50cmを目安に確保する。

温度管理(最低)

ステージ	温度
~消灯	年内出荷は無加温
消灯 ~消灯20日目	18
消灯21日目~	15

換気を目安 25

再電照

消灯後14日目(年内は13日目)より3日間、深夜5時間の電照を行う。

ビーナイン

1000倍で約80 / 1回を散布する。
またビーナイン処理時は灌水を控える。
1回目: 消灯後20日目 2回目: 消灯後30日目

摘蕾

わき芽の動きが非常に早いので十分注意して、適期に行う。

二度切り

電 照

1 作目の 2 / 3 程度、終了したら深夜 4 ~ 5 時間の電照を開始する。

ジベレリン処理（草丈確保のため）

1 回目 加温開始から 2 ~ 3 日目に 75 ~ 100 ppm を散布

2 回目 1 回目の 1 週間後に 50 ~ 75 ppm を散布

樹勢が強く大きな芽の場合はやや濃いめに、弱い芽はうすめの濃度で処理する。

処理量は 1 回目、2 回目とも 120 ㍉ / 10 a 程度（動噴の場合）

温度管理（夜温）

ス テ ー ジ	温 度
加温開始 ~ 14 日間（蒸込み）	18 （日中 25 ~ 30 ）
15 日以降 ~ 消灯 20 日前	13
消灯 20 日前 ~ 消灯	16
消灯 ~ 消灯 25 日目	18
消灯 26 日目 ~	15

加温開始時期

1 作目終了後直ちに切下株を整理し、十分にかん水を行った後、蒸込みを開始する。

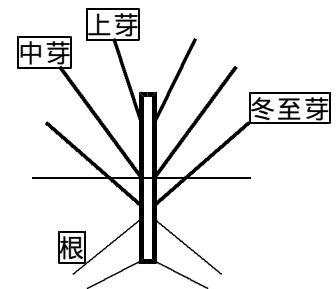
神馬は日照不足による開花遅延を起こしやすいため、2 度切り栽培時は消灯後の温度管理を 25 日間、20 で行う。

芽の整理（整枝）

揃った中芽、上芽を残し、草丈 15 cm 程度の時に整理する。

（ジベレリン処理前に早く伸びた冬至芽や前作の残茎を除くとジベレリンが均等にかかる。）

樹勢が強く伸長の早いものについては、草丈 25 cm 程度に伸長したときに中位葉を 2 ~ 3 枚除去する。



施 肥

肥 料 名	施肥量	N	P	K	施肥時期
BB 園芸 2 号 (追肥 1)	120	14.4	14.4	14.4	開始後 20 ~ 30 日目

BB 園芸 2 号 (12 - 12 - 12)、必要に応じて液肥を施用。

2 度切り開始時の追肥については、前作の肥料の残りぐあいをみて判断する。

消 灯

蒸込みから消灯までの期間は 40 日程度（年明）、消灯から開花までを 55 日程度（年明）を目安とする。

消灯時の草丈を 50 cm を目安に確保し、それ以上の草丈にしない。

再電照

再電は 3 月出荷まで行い、消灯後 14 日目より 3 日間、深夜 5 時間の電照を行う。

4 月以降の作型では、原則必要なし。

その他

冬季のハウス管理については温度と換気に注意を十分払う。

冬季のハウス管理

午前中はハウス内温度を 25 程度を目安に管理する。厳寒期の晴天日時は日の出後 2 時間程度を目安に内張りを開放し、日光をなるべく取り込む。その後は温度をみて、天窓や谷換気で温度を調節する。この時、冷気が直接株に当たらないようにサイドの換気は行わない。

朝ハウスに入って葉が濡れているような管理は絶対しない。

この際、施設内に換気扇（ファン）を取り付けておくと、病害、施設内の温度ムラが防止できる。

その他管理については同じ。